

# 「ふくえっ子」通信 NO. 7

平成30年  
9月27日

## 吉田松陰先生と脳科学（2）

校長 吉岡智昭

諸説ありますが、現在のヒト（ホモ＝サピエンス）が誕生したのは約20万年前とされています。これに対して、基本的人権の考えが生まれたのは約300年前のことで、ヒトの長い歴史の中では、つい最近のことです。生物的進化が、人権思想の発達に追いついていないことは致し方ないことかもしれません。だからといって、いじめは仕方がない、とはなりません。「いじめ」は、人権侵害にあたり、決して許されるものではありません。脳の機能を理解した上で、「いじめ」をなくすための手立てを考えることや、「いじめ」をしないための理性を身に付けていくことが大切です。

わたしがこの本を読んで頭に浮かんだのが、松陰先生の次の言葉です。

### ゆえん 「学は人たる所以を学ぶなり」

萩にお住まいのみなさんなら、この言葉を一度や二度は聞いたことがあると思います。もともとは、松陰先生の教育信条を記した「松下村塾記」の一節です。意味は、「学問というのは、今を生きる人としてふさわしい生き方を学ぶことである」といったところです。



もともと、私は「人たる所以」という言葉を、野生動物と人との対比で捉えていましたが、本書を読んで、生物種としての「ヒト」と、21世紀を生きる社会的な存在としての「人」との対比で捉えるようになりました。21世紀は人権の世紀と言われています。すべての人の人権が尊重され、すべての人が幸福に生きる権利をもつという考え方が世界の共通認識となっています。我々の脳内物質は、集団を維持するために自分たちのスタンダードから外れた少し違う人を排除するように命じるかもしれません。生物種としての「ヒト」のレベルで考えれば、脳内物質の命令に従って行動することは仕方がないことで済まされてしまうかもしれません。しかし、仮にそれによって集団が維持されたとしても、21世紀の「今を生きる人」としてふさわしい行動をしたとは言えません。今我々がすべき事は、異質なものを排除しようとする脳の特長（＝本能）をわかった上で、他者を不幸にしてしまう行動を取らないという判断力（＝理性）を身に付けることだと思います。本書の最後にも書いてありますが、そのためには、まず、自分は無意識のうちに他者を排除してしまうかもしれない存在であると、自分自身を客観的に見る力が必要です。これをメタ認知力といいます。メタ認知力を高め、誰もが幸せに生きるために、本能ではなく理性で行動することが、21世紀の「学は人たる所以を学ぶなり」の中身ではないかと考えます。

# 小中大運動会を開催しました

9月16日、明け方まで雨が降ったりやんだりの不安定な天候でしたが、準備を始める頃には雨もあがり、涼やかな天候の下で運動会を開催することができました。小学生と中学生の絆、子どもたちと保護者の皆様との絆、福栄小中学校と地域の皆様との絆を深める大変さわやかな運動会となりました。ご協力いただきました保護者の皆様、地域の皆様、そして最後までご観覧いただきました来賓の皆様にご心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



## 「ふくえっ子ブログ」をご覧ください

ここに載せきれなかった運動会の写真は、「ふくえっ子ブログ」に掲載しています。福栄小中学校 Web ページの「ふくえっ子ブログ」をクリックして下さい。



福栄小中学校

検索

ヤフーやグーグルで検索

ココをクリック